

平成三十年四月投句

音の無き雨に点りし残り花

落書きのごと這い上がる水の虻

声たどれば樋にちよこんと雀の子

勝利

橋潜るたび白秋の唄のどか

真理子

マンシヨンの如き船着き花吹雪

地震ふりし城とも知らず雀の子

花屑の川を渡りて登校す

炭坑節踊る輪にゐて月おぼろ

熊ん蜂一匹お城の広い空

節子

浅草の風に重たき八重桜

由紀子

園長は坊さま園児の花まつり

日の匂ひ藤の匂ひの磴上る

白髪ほめ肌色ほめて豆の花

てんでんの茶飲み話や豆の花

光子

国会に文句の母や風光る